

笑顔の花たくさん！  
女性レクリエーション大会

女性レクリエーション大会（大山町女性団体連絡協議会主催）が、9月18日に中山農業者トレーニンングセンターで行われ、約180人が参加しました。

「パン食い競走」や今年からの新競技「ドキドキ・バイプライン」などを楽しみ、大会恒例の「素敵でシヨウ」では、各地区とも小道具や衣装に趣向を凝らした演技を披露しました。中山地区は、大山開山1300年にちなんで「大山牛馬市や一息坂峠の接待」を演じ、拍手を集めました。

最後に、全員で各地区を代表する「いさい踊り」「鬼太郎大山音頭」「大山ばやし」を踊り、レクリエーション大会を盛り上げました。



▲大山牛馬市の一コマ  
(なかやま女性会議)

まちのたから (32) 文化財室通信

シリーズ「日本遺産」

第6話

今回は引き続き第2章、大山牛馬市について紹介します。

「日本三大」牛馬市

牛馬信仰で有名な大山寺によって庇護され、その花表で開かれた博労座の牛馬市は人気を博しました。大山さんの春と秋の祭りの日に合わせて行われました。その人気の高まりから、やがて開市の数も増やされました。市には西日本各地から多くの人や牛馬が集まるようになり、やがて日本三大牛馬市のひとつと称されるほどの隆盛を極めました。

ちなみに「日本三大」とうたわれる他の牛馬市は、広島県の久井と福島の白河です。

にぎやかな市のようす

当時の牛馬市はどんな様子だったのでしょうか。残念ながら、牛馬市の様子を今に伝える資料は、本当に少ないのが現状です。

牛馬市のにぎやかな様子を伝える資料として、歌川広重作と伝わる「大山寺博労市図」という扇絵があります。

す。大山参りの人々と牛馬や博労たち、またその見物人などの活気に満ちた様子が描かれています。

また、売買が成立した際の祝い酒の場で歌われた博労歌には、こんな内容が謡われています。

♪博労さんならここらが勝負、花の大山博労座 西の番所は備前か備中、東の番所は但馬の牛か、中は出雲か伯耆の国か、隠岐の国から牛積んだ船は淀江の浜に着く

隠岐島から大山をめざして運ばれてきた牛は、淀江の浜近くで海へ落ちて泳ぎ、上陸したそうです。淀江の港には茶店が並び、見物人などにぎわいました。隠岐の牛は足腰の強さで人気があり、上陸が早かったもののほど人気が高く、大山に上がることなく淀江の浜で次々と売れていったようです。

「日本最大」の大山牛馬市！

大山寺の庇護を受けていた大山牛馬市は、明治に大山寺が廃絶した後

大山牛馬市の入場頭数等

(明治34年)

入場 一一、八三四頭  
 売買 六、二七二頭  
 売上 八〇、三七〇、四九〇円  
 収入 一、四〇九、九〇四円

(明治39年)

入場頭数	牛	馬
四月市	五四七	八五
五月市	一七二三	三三九
七月市	一〇四九	一八二
九月市	三二五八	九二一
十月市	一二八九	一四七
計	七八六六	一六七四

『大山町誌』より転載

にも、株主による経営で行われ、明治36年以降は年に5回まで市が増え、年間一萬頭以上の牛馬が商われる国内最大の市へと発展しました。

購買客は山陰・山陽はもとより、近畿地方からも集まりました。毎回数千頭が出場し、一〜二日で取引したということから、活発な取引とにぎわいの様子が想像されます。

日本遺産事業では、大山牛馬市の様子を再現した映像を製作しました。往時の雰囲気を感じていただけないでしょうか。

(人権・社会教育課 文化財室)